

2024年度グッドデザイン賞受賞
わたしのいきかた手帳

株式会社和田デザイン事務所は、「わたしのいきかた手帳」において、公益財団法人日本デザイン振興会主催「2024年度グッドデザイン賞」を受賞しました（「つやま城下ハイスクール」とW受賞）。

■「わたしのいきかた手帳」について

「わたしのいきかた手帳」は、自分のこれから先の医療や介護の希望について話し合う「アドバンス・ケア・プランニング（愛称名：人生会議）」を行うために大切な、「わたし」が大切にしている事を改めて考え、その思いを大切な人や支援を受ける医療介護の専門職者に知ってもらうための手帳です。

■デザイナー×研究者

思考を見える化するデザイン・しかけ

超高齢社会の進行に伴い、人生の最終段階における医療・介護の希望を考えて大切な人や医療従事者に伝えておく「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）」の必要性が高まっています。

ACPを進めるためのしかけとして、全国的に行政機関等も「私のノート」といった同様の冊子を作成しています。それらはA4版が多く持ち運びには適さない点や、情報量が多すぎるまたは限定的すぎる、医療に特化しすぎたものがほとんどで利用者目線で作成されていると言い難いものも少なくありません。ヒアリングや調査研究、幾度の改良を重ねて完成しました。



デザインの工夫・ポイント

手元に置いておきたい
デザイン・質感段階的に考える
しかけ自分の気持ち・
道しるべの見える化

■だれも どこでも、ACPを身近に

これまで利用者も支援者も「声にすることが難かった」、あまりオープンでなかったACPを、例えば笑顔の絶えないグループワークが生まれる『これからのACP』をデザインしています。

■審査員コメント

人生の最終段階のことは、対話を始めることも躊躇われたり、聞いてはいけないのではないかと恐れている人も少なくない。この手帳は、医療や介護従事者目線ではなく、それらの領域につなげつつ、いかに利用者が最後まで自分の人生を全うするのを後押しするか、という視点でつくられている点が評価された。気持ちの揺らぎを書き留められたり、決め切らなくても良いというデザインは、その間にこそある豊かな感情の揺れや思いを伝え、対話を生み出すことが実感を持って感じられる。多くの人々がアクセスしやすくなるようさらなる普及を期待したい。



(左) デザイナー×研究者 (右) ワークショップの様子

受賞者

株式会社和田デザイン事務所＋
佛教大学保健医療技術学部看護学科

ディレクター：和田優輝＋濱吉美穂

受賞内容

受賞作品名：わたしのいきかた手帳

初版：2019年8月

公式URL：<https://acp-kaigi.jp/>購入先：<https://acpkaigi.base.ec/>

本件に関するお問い合わせ先

株式会社和田デザイン事務所 広報担当：和田
TEL：0868-29-6708 / 080-1635-7306 (和田)
MAIL：contact@slow-home.jp

受賞対象の詳細

「わたしのいきかた手帳」は、自分のこれから先の医療や介護の希望について話し合う「アドバンス・ケア・プランニング（愛称名：人生会議）」を行うために大切な、「わたし」が大切にしている事を改めて考え、その思いを大切な人や支援を受ける医療介護の専門職者に知ってもらうための手帳です。

- デザインのポイント**
- 1 自分にとって大切な手帳であり手元に置いておきたいと感じられるデザイン・質感であるということ
 - 2 自分のこれまでの生き様やこれからの希望について、ページをめくりながら段階的に考える仕掛けをしている
 - 3 今すぐに何かを決定しなくても、自分の気持ちの行方・道しるべが見える化できるデザイン

プロデューサー 株式会社和田デザイン事務所＋佛教大学保健医療技術学部看護学科

ディレクター 和田優輝＋濱吉美穂

デザイナー 和田優輝＋濱吉美穂

販売地域 国内

背景

超高齢社会の進行に伴い、人生の最終段階における医療・介護の希望を考慮して大切な人や医療従事者につたえておく”アドバンス・ケア・プランニング”の必要性が高まっています。申請者は数年にわたって同様の冊子を作成し実際に活用してもらいながら試行錯誤してきました。その中で得られた利用者からの様々な意見や研究の結果から、「自分にとって大切なもの」と強く認識できて手元においておく冊子であるためには、アクセシビリティと共に手触りや直観的で分かりやすく親しみやすいデザイン性が重要であることに気づかされました。また、何かを今決めてしまって、書面に記載してしまう事への忌避感も理解できたため、「わたしのいきかた」を考え・書き記す心のハードルを下げるために、あえて「決める」のではなく「どちらかということうちの気持ち」というような「曖昧な感情」が表現できるようなツールにすることを目指してデザイン化を進めました。

経緯とその成果

「わたしのいきかた手帳」は、「わたし」のことを周りの大切な人に知ってもらい、自分らしい人生の最終段階の時間を形作るための手帳です。申請者が過去に作成してきた冊子体は、医療者の視点が強くて、何かを決めてるという点で忌避感や負担感を感じる利用者も少なくありませんでした。そこで、「わたしの事を知ってもらうための手帳」というコンセプトのもと、医療や介護についての希望も考えるけれどここで何も決めなくてよいというメッセージを込め、「わたし」を大切に慈しみながら、誰かに伝えようという気持ちへと誘い思考が見える化するようデザインしました。決めなくてよいというメッセージとしては、5折のリックートスケールを採用したり、大切な写真を貼れる仕掛けをしたり、お薬手帳と共に持ち歩けるようにサイズダウンするなど改良を重ね、手に取った方たちからは「自分の大切な手帳」として家族と年に一度見返しているといった反響を得ています。

仕様

①レギュラーサイズ）寸法：幅150mm・高さ210mm、重量：38g、ページ数：16ページ ②おくすり手帳サイズ版）寸法：幅105mm・高さ148mm、重量：20g、ページ数：16ページ